



～教科部会を使って～

現在、教科部会を使って①授業で身につけたい力②そのためにどんな授業の仕掛けができるか、を話しあってもらっています。

今回は、数学部会で話し合ってもらった内容をまとめています。教科は違えど、共通点も多いので、ぜひ参考にしてください。

数学部会では、単なる学力向上だけでなく、「生徒が自律的に数学に向き合う姿勢をどう育てるか」という本質的なテーマが語られていました。

今回の通信は数学部会で話された、私たちが生徒にどのような力を身につけさせたいのか、そしてそのために授業をどう変えていくべきか、活発な意見交換が行われました。

1. 私たちが考える「生徒に身につけさせたい力」とは

- ・「わからない」と言える勇気：わからなければ、わからないと言える勇気。
- ・粘り強さと自己効力感：難しい問題でも諦めずに取り組む姿勢や取り組むための基盤（計算力）
- ・自ら解決する力：教師に頼り切るのではなく、自分で「調べる力」、仲間に「聞く力」、文章を「読み取る力」を育てる。

2. 「手放す指導」への挑戦と葛藤

「教師が教えすぎない」という授業スタイルへの転換が議論の焦点となりました。

- ・解説を短縮する試み：「極力喋らず、解説を最後の10～15分に留める」といった、演習中心の授業スタイルを模索しています。
- ・教師の葛藤：初めて学ぶ概念（代入など）をどう生徒に委ねるか、ついつい教えてしまう「教えた欲」をいかに抑えるかという切実な悩みも共有されました。
- ・自走を促す「単元計画」：生徒が教師の指示を待たずにサクサク進められるよう、見通しを持てる単元計画とプリント配布が有効であるとの報告がありました。

3. 学習を個別最適化するツールと実践例

現場で実際に効果を上げている具体的な手法が共有されました。

- ・ICTの活用（動画配信）：ロイロノートの画面収録機能を使い、テスト解説などの動画を配信。イヤホンを使って個別のペースで視聴したり、家庭で復習したりすることで、理解の定着を図っています。
- ・反復練習の効率化：「ネットレ」や100マス計算、AIドリルなどは、生徒が集中して取り組みやすく、基礎計算力の定着に非常に有効です。
- ・ペア学習の工夫：連立方程式の導入などで、解き方のプロセス（足すか引くか、何倍するか）をクイズ形式で学べるカードを活用。ペアで取り組むことで、全員が基本操作をマスターできた事例も紹介されました。

4. 今後の課題：進度と理解のバランス

厳しいカリキュラム進度の中で、いかに生徒が「消化不良」を起こさないようにするかは共通の課題です。単なる「範囲を終わらせるための授業」ではなく、生徒が能動的に動ける「耐える50分ではない、動ける50分」をどう実現するか、引き続き検討していきます。

この内容は、先生方の授業実践のヒントになるだけでなく、数学科としての共通理解を深めるための重要な一歩となりました。